

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	3990600037
法人名	医療法人 地塩会
事業所名	グループホーム 新荘の里
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 2 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3990600037
法人名	医療法人 地塩会
事業所名	グループホーム 新荘の里
所在地 (電話番号)	高知県須崎市下分甲606-3 (電話)0889-43-0101

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年5月1日

## 【情報提供票より】(19年11月28日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤 4 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	12.22 人

## (2)建物概要

建物形態	併設/〇単独	〇新築/改築
建物構造	準耐火構造物平屋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

## (4)利用者の概要(12月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 96 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	かがみ診療所 ・須崎くろしお病院	2
---------	------------------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺の自然と木造平屋の佇まいは利用者に安らぎを与えてくれる環境で、職員と一緒に玄関前を掃除する光景は和やかに自然で、家庭であることを感じさせる。近くの保育園や小学校の子供たちとの交流にも力を注ぎ、利用者の喜びに繋げている。同業者との交流や市町村との連携にも積極的な取り組みが見られる。職員支援への取り組みも熱意が伝わってくるが、まだ1年を経過したところであり、今後の取り組みが期待される。地域の理解を得る基盤もあり、関係する全ての人々に満足を与える地域密着型の事業所として発展されることを期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	初回評価のため該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員が評価の意義を理解し、自己評価については手順を踏み2ユニットの意見を1つにまとめている。ユニットごとの評価も項目によつての違いが生じてくるので留意されたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	事業所からの報告(利用者やサービスの実践内容、自己評価の内容など)を行い、委員から質問や要望が出されるなど双方向的な会議となっている。要望、アドバイスも取り組みに活かす努力をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	これまでに個別の意見や苦情などは寄せられていない。地区の花火大会に見物場所として家族に事業所を開放した際に自然に話し合いの機会がもてたが意見は出なかった。今後は家族会を設立し、自由に気兼ねなく意見を出せる場と雰囲気作り尽力されたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地区会に加入し情報も入手できており、地域行事などにも積極的に参加している。近くにある保育園や小学校との交流も行われている。近くに民家がないこともあり、日常的な近隣住民との触れ合いは少なく、顔馴染の関係までには至っていない。利用者の行先不明時や災害時にも協力を得られる関係を構築されるよう一層の努力を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 開設の際、職員全員で話し合い検討し作成した独自の理念である。  <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である	○	基本方針の中では触れているが、理念の中に、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスの内容、または役割について文章化することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 朝礼後や職員会などで常に確認している。職員は支援の中での不適切と思われる言動について振り返りを行うなど意識づけが出来ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 生活援助場面では特に、言葉かけや意志の尊重を大切に考えており、家庭に近い雰囲気の中で和やかに暮らせるよう支える姿勢が窺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。  <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域主催の救急法講習会や溝掃除などの行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 各ユニットの職員が順次評価表に目を通してチェックし、職員と管理者で話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 初回評価のため該当なし。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 事業報告の後、参加メンバーから要望、助言等も出されている。それらを事業所の質向上に繋げるよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでい初回評価であり、外部評価を受診することについての説明している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 市主催の地域ケア会議(年4回福祉施設関連)へ参加するほか、地域包括支援センターの職員とは利用者の入居に関する情報交換を日頃より行っている。また、市の徘徊ネットワーク組織に所属するなど折に触れ交流している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 来訪時に細やかに話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 ホームの便り(新荘の里便り)のメッセージ欄で担当者が近況やエピソードを伝えたり、四季折々に葉書を送付するほか、面会時には写真を手渡すなどの対応をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 利用者2人は自己管理し、事業所では預り金など金銭管理はしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 地域行事で事業所を開放した際に集まった家族とは家族会について話し合っているが、発足には至っていない。家族間の話し合いを意図的に設定する機会はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 これまで苦情は出ていないが、家族から要望が出た際には即応している。	○	家族間の交流はもとより、自然に要望や不安、苦情などを話し合える場合は、事業所が家族の率直な声を聞く機会であり、サービスの質向上への反映と、家族の信頼と安心感を高める。家族会発足の支援を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 これまでの異動は最小限で、馴染みの職員が継続的に支援する体制がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 異動の際には1～2週間程度の実習体制で対応し、夜勤も2カ月経過後に2人体制から行うなど細やかに配慮しており、利用者には不安はみられない。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>						
	10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 研修情報は全職員が把握し、パート職員も研修や会議に参加している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 研修報告書を提出し職員会などで発表している。全職員に報告書を回覧し、情報共有に努力している。現場では技術面の指導やアドバイスを行う体制もある。</p>		
	11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 四国や県・市単位のネットワークに参加し、情報交換とサービスや職員の質向上に繋げている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
	12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 施設や病院からの入居希望の場合には施設に出向き本人や関係者から情報を得ている。居宅からの場合は併せて介護支援専門員から情報を得ている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族に事業所の見学や体験してもらっている。 お茶の時間帯に合わせて本人・家族で訪問いただくなど、ホームの雰囲気伝えることにも配慮している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。理念に基づき、喜怒哀楽を共にして利用者からこれまでの生活の知恵を教わりながら家事を一緒に行うなど、支えあう関係のなかで日々過ごしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 食事作り、畑作業その他の生活場面においても常に職員間の会話にならないよう意識し、利用者との冗談を交えながら和やかな時間を過ごしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 昔から伝わる料理法や祭りの意味、手法を教わったり、回想法を取り入れ会話が弾むなかで地域の景色の変化についてなど話が弾んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 日々の暮らしの中で希望や意向を聞き取ったり、表情や言動からの把握に努めている。また、家族の意向を伺うなど常に把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 面会時や電話などで家族から情報を得ている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 家族の要望(痛みの訴え、体調管理、帰宅願望など)を細やかに聞き取り、計画に反映するよう検討し作成に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 モニタリングを3カ月ごと、カンファレンスは月1回を基本に、アセスメントを含め全職員で行っている。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 6カ月に1回の見直しを基本に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 緊急時や必要に応じて随時見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 これまでは計画内容や本人の状態による個別の期間設定をしていない	○	利用者の状態により短期間での見直しを求められる場合もあり、随時見直し以外にも計画の設定時に見直し期間そのものを個別に設定することにも配慮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。  <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 事業所には提供体制があり、入居時に看取りを希望する家族もあるが、これまでは事例がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 季節ごとの遠出のほか、知人に会いに出かけたり、良心市への買い物に出かけている。通院や送迎は家族と話し合い柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 かかりつけ医や専門医への受診、家族の希望で主治医の変更等もあり、協力医療機関の医師の往診(月2回)などで納得する支援ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 家族の意向に応じて柔軟な対応ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族が同伴した場合は薬剤情報や受診結果を伝えてもらい、事業所で対応した場合は家族に情報を電話で連絡している。結果を連絡帳に記録し職員間でも情報共有するように努めてる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 看取りの対応指針を作成し、終末期の取り組みについて職員間で共有している。また、状態の変化に応じて話し合いが行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。 入居時より話し合いがもたれている。状態変化によって家族の意向にも変化が見られ、医師、家族、職員が連携をとりながら納得いく最期を迎えられるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 排泄時の声かけ、食事時のさりげない配慮など本人を大切に考えた対応をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 利用者の希望は把握できているが、それへの対応が十分でない。 <input type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 業務マニュアルに添った1日の流れになることがあり、利用者の生活に柔軟に対応できていない場面がある。	○	職員には利用者の希望を把握し、その都度対応したい思いはあるが、勤務体制や利用者からの希望が出されるタイミングなどにより必ずしも対応できないこともある。利用者の希望を受け入れ、その人らしく豊かな気持ちで暮らす支援を行うための方策について、更に検討されることを望む。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 利用者の意欲を引き出すよう心がけ、強制せずに各々の能力に応じた調理の下拵え、下膳、食器洗いなどの役割ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 同じテーブルで同じ食事を目配りしながら一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 主に昼食後から15時頃までに声掛けし、入浴を支援している。夜間浴などの希望はないが、実施は困難な状況である。入浴の所要時間は利用者の意向に添って対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 入浴拒否者には言葉かけを工夫し誘導している。それでも拒否される場合は日を変更するなど対応している。	○	入浴は転倒の危険も懸念されるため、それ相応の職員配置が必要であるが、現在のローテーションでは、希望にあわせて入浴は困難な状況である。安心してゆっくと対応できる勤務体制の整備が望まれる。



外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 その人の生活歴や日々のコミュニケーションの中から、また家族からの情報によって把握している。  <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 一緒に食事作りをする際に調理法を教わったり、畑仕事などで教わる場面がある。  <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 廃油処理道具や掃除用具をそれとなく提供したり、昔の歌や踊り(炭鉱節)も自然に出る場面作りがある。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけでなくその人の馴染みの店や場所へ出かけている。 家族同伴で馴染みの美容院へ出かけたり、母校を訪問し懐かしむ利用者もいる。  <input type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に 行っている。 気候の良いときは前庭のベンチで楽しむが、声がけしても戸外に出ない利用者も居られ、継続した支援が求められる。  <input type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 食材は業者が搬入しているが、食材の不足分を利用者数人と一緒に買いに出かけることがある程度で日常的な外出は見られない。	○	外出は利用者の気分転換にとどまらず、地域に密着したサービスの一環としても日常的に機会を見出し、外出を支援することが不可欠であると考える。現在検討中とのことであり期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 玄関は時間帯によって施錠している。居室にも簡単な鍵を設置している。施錠により気分の落ち着かれる方もおり本人の希望によって施錠することもある。  <input type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 無断外出する利用者の行動パターンが十分に把握できておらず、思いがけない現場で発見されるなどの事例がある。  <input type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いてい 近隣に民家が少ないこともあり、近所の人との協力が得られる関係は今のところできていない。	○	無断外出については原因を探求し、さらには近隣住民の理解を得てオープンに協力してもらえる関係を築いていくことが、事故を未然に防ぐ点でも重要である。開所間もない事業所であり、今後の取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常食料・備品を準備している。 ※視認する。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 少食や偏食がちな利用者については配慮しているが、利用者一人ひとりの摂取量について記録がなく、職員が共通認識に立っているとはいえない。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 嗜好を把握し常に配慮しながら食事作りに携わっており、食事形態などにも配慮している。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 開設当初はチェックしてもらっていたが、現在は行われていない。	○	特定の利用者については栄養・水分量ともに把握できており、その都度の補給などに配慮して支援できているが、一人ひとりのチェック表が用意されていない。正常時の把握ができてこそ異常の発見に繋がることから、一人ひとりの記録を職員が共有する手段の整備が望まれる。また、専門的な立場の方から献立を定期的にチェックしてもらい、安心と自信を持って食事のサービスに携われるようになることを期待し
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 共用空間の調度品には馴染みの雰囲気の商品が配置され、居間には大正琴や風船などの遊具も手に取れる所に置かれていて親しみやすい空間になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない折り紙等、適度の装飾で温かみのある雰囲気作りができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 風呂場では柚子湯を楽しんでもらい爽快感と季節感を提供したり、季節の果物が何気なく置かれ、料理の匂いも漂い、様々な感性を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 箆笥、椅子、鏡台、時計をはじめ家族の手作りの品や化粧品の小物入れなど、個性が窺え温かみを感じる居室が多く見られる。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 棟ごとに違いも見られ、手作り額の写真やカレンダーなどに工夫が見られるが、その人らしい居室作りについて利用者とともに工夫されることを期待したい。		